

明治維新150年(平成30年)の大河ドラマに 近代日本の幕開けに活躍した 福井ゆかりの人物を

1 現代に通じる由利公正

- ◆ 由利は、福井藩と国の両方で活躍した人物であり、地方出自の人材の活躍により国が発展することは、今日の地方創生の目指す姿に通じるものである。
- ◆ 由利が責任者となった明治維新直後の財政政策の柱の一つは各地の殖産であり、地方を豊かにすることで国を豊かにすることが構想されていた。由利の構想は今日の我が国の目指すべき方向と一致する。



由利 公正(三岡八郎)
(福井市立郷土歴史博物館蔵)

2 明治維新における由利公正の業績

明治維新の立役者は西郷隆盛や木戸孝允達ということになっている。しかし、明治維新を支えた一番の功労者は由利公正ではないだろうか。

由利は、「五箇条の御誓文」の草案の起草者である。御誓文は、明治維新の指導精神として、近代国家建設のさまざまな施策に受け継がれた。また、太政官札を発行し、新政府の運営費を賄った。

①「五箇条の御誓文」の起草

坂本龍馬が新政府の方針として創った「船中八策」をさらに吟味し、「議事之体大意」を著した。「議事之体大意」は、明治元年3月14日に、新政府が公布した国家の基本方針「五箇条の御誓文」の原型となった。

②太政官札の発行

わが国最初の全国通用紙幣である太政官札の発行を建議し、慶応4年(明治元年)5月から明治2年7月まで発行する。これにより、明治政府の殖産興業諸改革の莫大な費用は賄われ、国家経済は成長路線に乗り、廃藩置県や地租改正も可能になった。

③殖産興業政策の推進

東京府知事の時代、明治5年5月から翌6年2月まで、欧米視察に参加した際、絹布見本数種を持ち帰り、機業に関わっていた旧福井藩士に渡し、従来の越前奉書紬の品質改良を促した。これが、福井において繊維産業が隆盛を誇るきっかけとなった。

④東京不燃化計画の策定・実行

東京府知事に任命された後に発生した明治5年2月の大火で約5千戸、28万余坪を焼失。これを受け、抜本的な都市改造が必要と考え、銀座の街路の拡幅や不燃性の煉瓦建築など大規模な不燃性都市化計画を提案、実現させた。

⑤民撰議院設立の建白

明治7年1月、板垣退助、副島種臣、江藤新平らとともに、民撰議院の設立建白を行った。

エピソード集

2 各地の由利公正エピソード

毛矢侍(けやぶむらい)と「幸橋」

福井

福井城下の毛矢町は、旧松岡藩から移住した武士の居住地であり、三岡家をはじめとする居住者は「毛矢侍」と称された。

毛矢町から足羽川への架橋が望まれたが、防衛上の観点から認められず、毛矢侍が城へ出仕する際には、兩岸に渡した綱を手繰って往来する「繰り舟」を用いていた。

山利が藩の要職に抜擢された文久2年(1862年)によく悲願であった架橋が実現。毛矢侍はその喜びから「幸橋」と命名した。



幸橋南詰上流側に整備された由利公正広場

坂本龍馬が二人？

福井



坂本龍馬肖像(高知県立歴史民俗資料館蔵)

坂本龍馬から後藤象二郎に宛てた手紙には新政府の財政担当者に由利を推す旨の記載がある。

由利と坂本龍馬とは大変気が合う仲で、龍馬二度目の福井来訪時、足羽川近くの山町の蓑屋(たばこや)旅館で、早朝から深夜まで延々日本の将来を語り合った。当時、謹慎中の由利には立会人として藩士が付き添ったにもかかわらず、龍馬は遠慮せずに「三岡、話すことが山ほどあるぜよ」と叫んだと伝えられる。

「五箇条の御誓文」の原文となった「議事之体大意」は龍馬の「船中八策」と思想的な基本が共通している。

龍馬が福井を離れてから10日後、家老の家に招かれた由利は、帰り道、懐中に忍ばせていた龍馬の写真がなくなっていることに気付く。胸騒ぎがしたその2日後、龍馬の死を知ることとなる。

横井小楠との運命的な出会い

熊本



横井小楠肖像
(福井市立郷土歴史博物館蔵)

横井小楠の教えに従って、福井藩でも産業奨励を行うことになり、その責任者に由利が選ばれる。当時の由利は「あいつは錢勘定ばかり堪能で、武士にあるまじき振る舞いをしている」と周囲から馬鹿にされてきたが、小楠との出会いより、これまでの由利に対する批判が一変する。

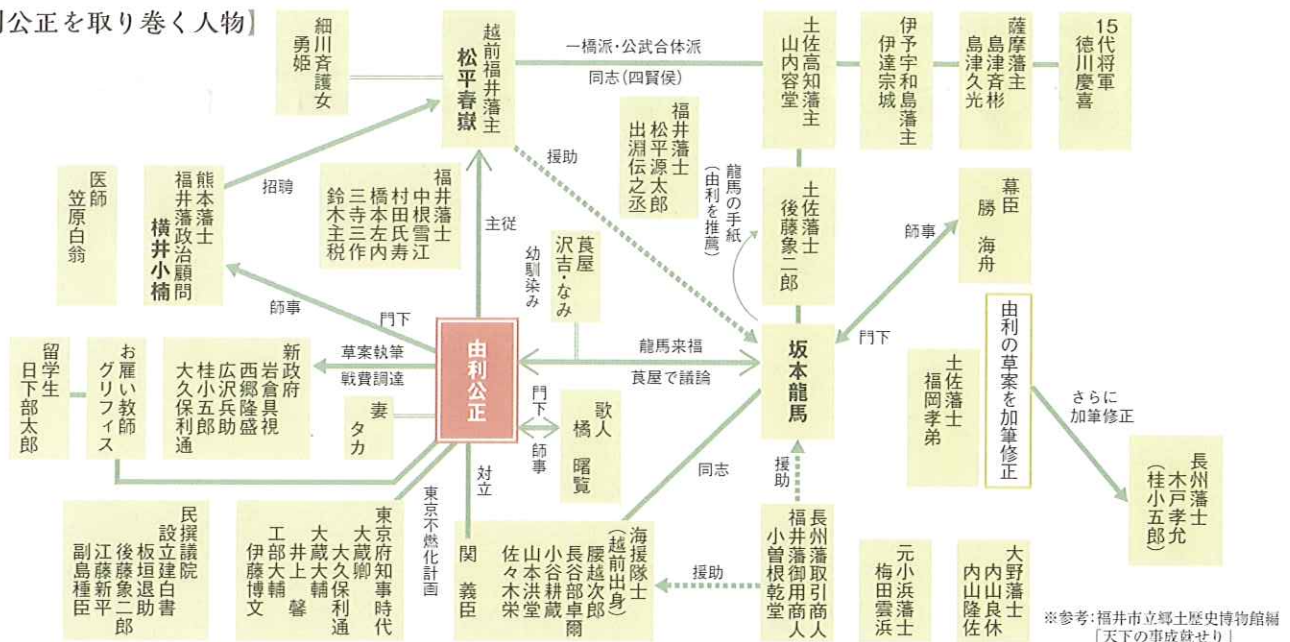
小楠が、福井へ赴いた年、弟死亡の知らせで一時熊本に帰国することとなったが、その際由利も同行し、毎夜、小楠と酒を酌み交わし議論を行った。この3年後、由利は再度熊本に小楠を訪ねている。

由利公正の略歴






生没:文政12年(1829)~明治42年(1909) 幕末の福井藩士。明治維新まで三岡八郎を名乗る。

- ・文政12年(1829)福井城下毛矢に生まれる。
- ・福井に来遊した横井小楠の学問に影響を受け、藩財政を研究。殖産興業策を進め、藩財政を黒字化した。
- ・慶応3年(1867)、坂本龍馬が新政府への参画を求めて来訪。
- ・維新後は新政府の参与となり財政を担当。また、「五箇条の御誓文」の草案を起草。
- ・明治4年(1871)には廃藩置県後の初代東京府知事となり、翌年、岩倉欧米視察団に随行。
- ・その後元老院議員、貴族院議員を務める。
- ・81歳で没。

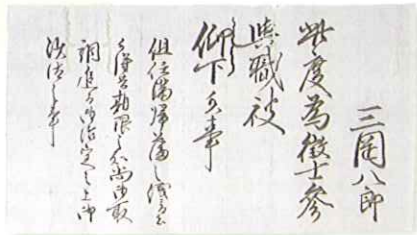
【由利公正を取り巻く人物】



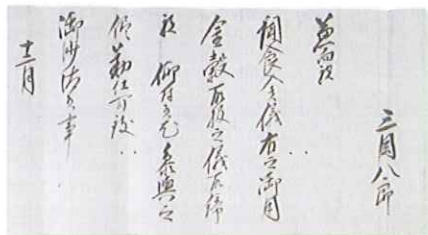
【幕末期、明治維新时期における偉人の由利公正評】

由利公正に対する評価	
	坂本龍馬 ・後藤象二郎に宛てた手紙より 「総じて金銀物産等のことを論じるには、この三岡八郎を置いて他に人はいないでしょう。」
	西郷隆盛 ・由利が太政官札を発行したが、その評価について 「由利公正の金札(太政官札)がなければ、維新はあと数年かかっていたらう。」
	木戸孝允 ・由利が会計官を辞職後も中央政界復帰を求める手紙を送る。 「(木戸から)戻って来いと手紙が来ているし、先日も国の政体について意見を述べるよう通知があった。」(由利談)
	勝海舟 ・勝の命により福井藩に赴いた龍馬が、後に由利を新政府へ推薦する。 「三岡がよろしいと言えは春嶽公も何も言わないだろう。何しろ、自力で藩庫を潤した勘定役だからな。」
	グリフィス ・グリフィスは由利とお互いに居宅を訪問し合う仲であった。 「東京から速達で手紙を受け取る。三岡からで、私に早く江戸に来いという通知だった。」

由利公正関係資料



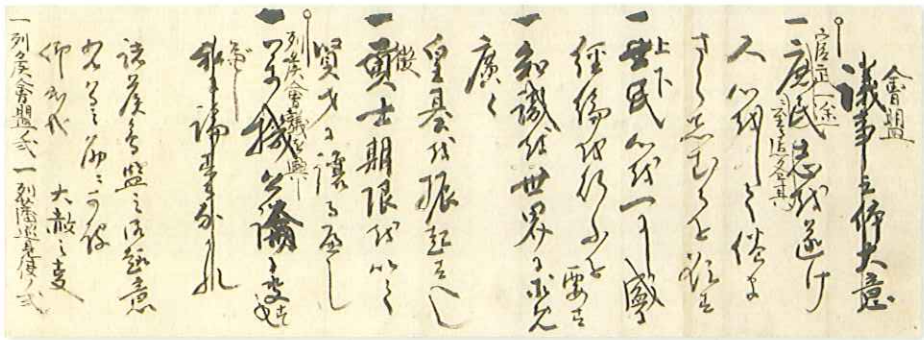
▲ 参事職の辞令
(福井県立歴史博物館蔵)
新政府の参与として出仕するよう命じたもの
(慶応3年 1867年)



▲ 金穀取扱之儀取締の沙汰書
(福井県立歴史博物館蔵)
新政府が三岡八郎を財政担当の職に任命したもの
(慶応3年 1867年)



▲ 由利家伝来のシルクハット
(福井県立歴史博物館蔵)



▲ 議事之体大意 (福井県立図書館蔵)
由利公正が執筆したもので、明治政府の国家方針「五箇条の御誓文」の原案となった(明治元年 1868年)



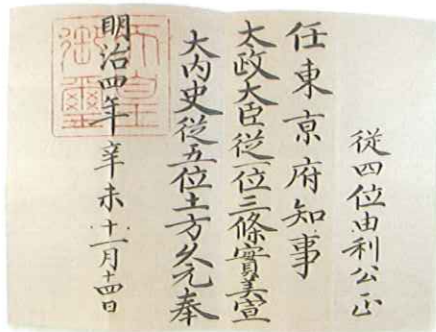
▲ 太政官札
(福井県立こども歴史文化館蔵)
明治元年(1868年)、由利公正の発案により
発行された全国通用紙幣



▲ 由利公正画像書幅
(福井県立歴史博物館蔵)



▲ 東京府知事辞令
(福井県立歴史博物館蔵)
明治4年(1871年)、
東京府知事に任命された



▲ 東京名所 銀座通
(福井県立歴史博物館蔵)
銀座通りを復興し、煉瓦
造りの街にする方針を打
ち出した
(明治5年 1872年)

▲ 東京府知事時代の
由利公正
明治4年(1871年)~
明治5年(1872年)
(三岡丈夫著「由利公正伝」より)



健康長寿の福井

福井県観光営業部ブランド営業課
910-8580 福井県福井市大手3丁目17-1
TEL:0776-20-0762 FAX:0776-20-0513
E-Mail:brand@pref.fukui.lg.jp



©FUKUI/play set products